由利本荘市農業委員会だより

あなたと農地。

2025（令和7）年
1月発行
第37号

出羽伝承館（大内地域岩谷町）で展示されている農作業風景。
同館の運営支援会議の支援委員のみなさんが制作した「かかし」です。
※写真は昨年９月から10月に展示されたもの
季節によっては、こいのぼりや風鈴、ハロウィン人形などの展示がされるそうです。
ぜひ足を運んでみたいスポットです。

撮影場所／出羽伝承館

市農業委員会ホームページ

新年のご挨拶

由利本荘市農業委員会
会長　**冨樫公一**

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃より、本市農業委員会の活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年は、一昨年に続く猛暑や記録的な豪雨により、地域農業が甚大な被害を受け、大変厳しい年となりました。復旧には多大な時間と費用を要し、稲作をはじめ、一部の農地では数年間生産が困難な状況が続いております。被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

こうした中、米価は高騰し、令和六年産米の概算金はひとめぼれで六十キロあたり約一万八千円と、前年より約七千円の上昇が見られました。しかし、浸水被害などの影響により収量が振るわず、結果として減収減益となった農業者も少なくありません。このような状況下で、自然を相手にする農業の厳しさを改めて実感するとともに、日々奮闘される農業者の皆さまのご労苦に深く敬意を表します。

市では、今年度末を期限として地域計画の策定を進めております。私たち農業委員や農地利用最適化推進委員も、地域の皆さまと積極的に話し合い、高齢化や担い手不足、遊休農地の増加といった喫緊の課題に対応する具体的な方策を見出してまいりたいと考えております。

本年も、委員一同、地域農業の発展と持続可能な未来の実現に向けて全力を尽くしてまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いします

農業委員・農地利用最適化推進委員一同

【会長】
冨樫公一（本荘）

【会長職務代理者】
佐藤喜勝（岩城）

【農業委員】
※議席番号順
佐藤崇（鳥海）
小松健（東由利）
齋藤誠（西目）
庄司和夫（由利）
佐々木亨（大内）
伊藤直子（大内）
菅原文克（本荘）
板垣利明（本荘）
三浦幸夫（大内）
吉尾麻美（岩城）
巴寛（由利）
佐藤源樹（鳥海）
佐藤榮一（矢島）
畑山留美子（矢島）
佐々木剛（大内）
伊藤剛（由利）
加藤三敏（大内）
大瀧浪雄（本荘）
佐々木純一（本荘）
小野晃一（東由利）
豊島靖喜（矢島）
真坂和都（鳥海）

【農地利用最適化推進委員】
※地域毎五十音順
伊藤一正（本荘）
猪股寿人（本荘）
金清二（本荘）
大門護（本荘）
本間初（本荘）
佐藤角栄（矢島）
佐藤博美（矢島）
新田富士雄（岩城）
吉田真大（岩城）
五十嵐幸司（由利）
庄司昭一（由利）
長谷川智明（由利）
伊藤美恵子（大内）
菊地裕子（大内）
佐々木高志（大内）
畠山実（大内）
遠藤良夫（東由利）
古関幸子（東由利）
齋藤衛（西目）
三浦善信（西目）
赤川隆（鳥海）
梶原昌章（鳥海）
三舩勘一（鳥海）

農業委員会の活動日記から

農業委員、農地利用最適化推進委員の主な活動から紹介します。

地域農業者協議会（地域の話し合い）

令和6年度末までの地域計画策定のため、各地域で地域農業者協議会（地域の話し合い）が開催されました。

委員、推進委員が中心となって話し合いが進められました。

▲本荘・小友

▲由利

▲矢島

▲東由利

▲鳥海

市長・議長へ「令和7年度農地等利用最適化推進施策に関する提案書」を提出

令和6年10月22日、24日に委員全員協議会において決議した提案書を、会長、会長職務代理者、各委員長が市長および市議会議長へ提出いたしました。提案書については、豪雨災害による「農地・農業用施設の復旧支援」や農業委員会の喫緊の課題である「農地の集積・集約化」、「担い手の確保育成・経営対策」などを盛り込みました。

23項目にわたるその内容はいずれも農業者が直面している重要案件。厳しい財政状況ではありますが、一つでも多くの実現に向けた支援に期待したいところです。

◀農業者の思いを込めた提案書を提出

農業者等との意見交換会

9/20（本荘地域ホテル）

本荘地域の法人代表、農業者のみなさんとの意見交換会を開催

◀活発な意見が交わされたパネルディスカッション

秋田県農業委員会大会

11/2（鹿角市）

鹿角市文化の杜交流館コモッセでの大会に委員、推進委員12人が出席

◀農業委員会の使命と役割を再確認した大会

7月豪雨被害激甚災害指定

被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。
早期の復旧が実現されることを願います。
農地に関する相談は農業委員、農地利用最適化推進委員まで。

由　利

矢　島

西　目

東由利

岩　城

大　内

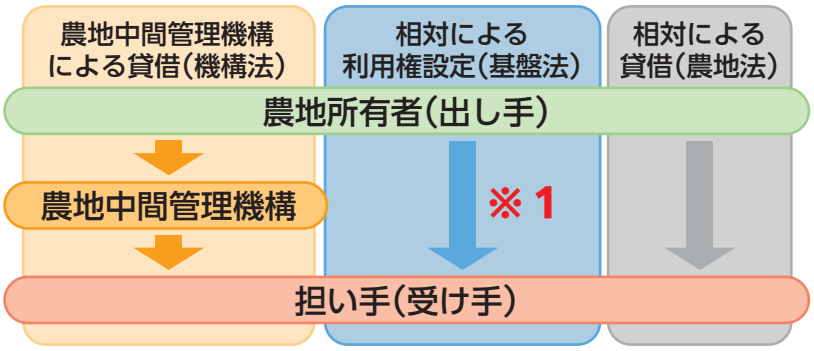
本　荘

鳥　海

農業者の皆様へ

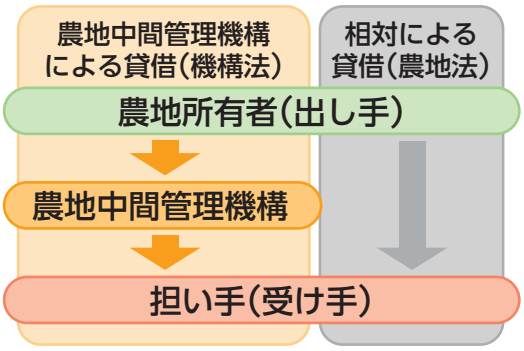
農地の貸し借りは、令和7年4月から、原則として農地中間管理機構経由になります！

<現　行>



<令和7年4月以降>

目標地図（※2）の実現に向けて農地の集約化を進める



※1　申出書等の提出は、令和7年2月末日まで

※2 市町村の作成する地域計画において、農地一筆ごとに将来、誰が耕作するのかを示した、地域農業の未来設計図。随時更新が可能。

農地中間管理機構による貸借（機構法）と相対による貸借（農地法）違いとは？

	農地中間管理機構による貸借（機構法）	相対による貸借（農地法）
貸借期間終了の農地	貸借期間終了後、所有者に返却されます。 新たな耕作者と契約できるため、集約化が可能となります。 ※期間満了通知あり	期間満了前に手続きを行わない場合、契約が自動延長されます。 ※期間満了通知なし
契約先	所有者・耕作者ともに、農地中間管理機構を担う「秋田県農業公社」が契約先となります。賃貸借料の受け渡しが一本化されます。	所有者と耕作者の直接契約となります。そのため、契約先が複数の場合、事務が煩雑になります。
賃貸借料	所有者は、秋田県農業公社より賃貸借料が振り込まれ、未払いの心配がありません。 耕作者は、口座から自動引き落としされ手間が軽減されます。 ※物納はできません。	賃貸借料の金額変更や受け取りは、所有者と耕作者で直接行うこととなります。それに伴うトラブルも同様です。
手数料	秋田県農業公社は、所有者・耕作者から手数料として契約初年度のみ１契約あたり５千円を徴収します。 同一年度に複数契約する場合は、初回のみの徴収となります。	申請時に提出する登記事項証明書は、契約する農地の一筆毎に発行手数料600円が発生します。
貸借期間中の所有者の死亡	所有者の相続人は、秋田県農業公社へ名義変更の申請をすることによって、死亡してからの賃貸借料を受け取ることができます。 耕作者は、手続きはありません。	耕作者は、新たな所有者・所有者の相続人を探さなければなりません。 所有者側も同様です。

☆農地中間管理機構の詳細は、
農林水産省HPをご利用ください！

https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/kikou/nouchibank.html

農地バンク/農地中間管理機構 検索

お問い合わせ先　市外局番（0184）

由利本荘市	農業委員会事務局	農地班	Tel 24-6260	Fax 24-6396
		矢島庶務班	Tel 55-4957	Fax 55-2157
		岩城庶務班	Tel 73-2014	Fax 73-2131
		由利庶務班	Tel 53-2114	Fax 53-2962
		大内庶務班	Tel 65-2804	Fax 65-2217
		東由利庶務班	Tel 69-2116	Fax 69-2039
		西目庶務班	Tel 33-4614	Fax 33-4189
		鳥海庶務班	Tel 57-2205	Fax 57-2076
由利本荘市	産業振興部	農業振興課 担い手支援班	Tel 24-6234	Fax 22-5107

農業にチャレンジ
Challenge in Agriculture

樹体ジョイントによる低樹高栽培

高密植栽培自動灌水設備

齋　藤　　颯 さん（21歳）
西目地域　潟保

地元の西目高校卒業後、未来農業フロンティア育成研修を2年間受講した後、令和6年4月に就農しました。リンゴ約3ha、水稲約6ha、比内地鶏1500羽の複合経営をしています。新規にサクランボとスイートコーンの栽培を始めましたが、気候、土壌の条件に恵まれず、就農一年目は我慢と勉強の年となりました。

リンゴでは高密植栽培、サクランボではY字樹形など省力化できる栽培に力を入れています。農家の数が減少している今、一農家当たりの経営面積や作業量はかなり増えています。そこでいかに作業効率を上げるか、もしくは省くか、ということを考え、面積が多くても楽に仕事ができるように心がけています。

しかし昨今、異常気象が毎年のように各地を襲い、昨年7月には、私の地元西目地区も豪雨被害に見舞われました。川が氾濫し堤防が決壊、水田ではかなりの被害を受けました。誰もが経験したことのない大雨だったと語っていました。

これから新たな作目を取り入れた複合経営をしていく中で、経験では補うことのできない異常気象や年々変わっていく消費者ニーズに順応し、質の高い作物を作りたいです。また作業の効率化を考え規模拡大に伴い、法人化を進めるなど、リスクマネジメントを大事にしながら失敗を恐れずに挑戦し続けたいです。

（担当委員　齋藤衛）

さくらんぼ雨除けハウスの設置

農業委員会組織が
発行する農業に関する
総合専門誌です

全国農業新聞

https://www.nca.or.jp/shinbun/

◇発行所／全国農業会議所
◇発　行／月４回金曜日
◇購読料／月700円　年8,400円（税込）
購読申込みは農業委員会事務局まで

農業者年金に加入しませんか？

次の要件を満たす方はどなたでも加入できます。

- 年間60日以上農業に従事
- 国民年金第1号被保険者（国民年金保険料納付免除者を除く）
- 20歳～65歳未満（60歳以上は、国民年金の任意加入被保険者）

※農業者年金に加入される方は、国民年金の付加年金（付加保険料月額400円）への加入が必要です。
※農業者年金と国民年金基金（旧みどり年金含む）及び個人型確定拠出年金（イデコ）とは重複加入できません。

「農業者年金」のしくみ 動画（YouTube）▶

生涯現役

大瀧浪雄さん（75歳）ご夫妻
喜恵さん（72歳）

本荘地域　芦川

高校卒業時、50ａの自作田で第２種兼業農家でした。農地を荒らしてはいけないとの信念のもと、機械化を図り、農業の効率化を求め、軟弱圃場などを利用権設定し、今は水稲７・７ha、ソバ２・５ha作付する認定農業者です。

30ａ圃場で代掻き時、キャタピラ付きトラクターが深みにはまり、脱出用トラクターもはまり四苦八苦。田植えは、半日かけ歩行田植機で終えました。芦川は中山間地域で海、山、川があり不定形農地がほとんどです。田んぼに行くのに山に行くと昔から言われていました。圃場、水路、農道管理など苦労は絶えませんがこれまで頑張れたのは、農作業で汗を掻き新陳代謝を高める全身運動であると自負しているからです。

稲作は、半年働いて半年が休みと捉えると余暇の有効活用することができるのです。新規就農者にも一考になれば幸いです。

中山間地域等直接支払交付金、多面的機能支払交付金を非農家と協力しながら農道、水路、畦畔法面、境内等の草刈作業や伝統文化事業に活用しています。

芦川ダムの豊潤な水での稲作は、喜びであり、農地を守りながら81歳まで健康で楽しく頑張りたいです。家内には、農業の手伝いや家事全般はもちろん、青色申告の手続き全てをやってもらい感謝しています。

（担当委員　大瀧浪雄）

女性活躍！ ゆりほん農委レディース7（セブン）

女性委員が農業委員会の取り組みや活動について、幅広い世代に周知することを目的として「ゆりほん農委レディース7」（会長＝畑山留美子農業委員）を立ち上げました。

昨年は、2回の活動を行いました。

そば打ち体験後情報交換（11/26・石沢学校食堂）

小学生への読み聞かせ（2/11・岩谷児童館）

野内守のまもchanNEL（ちゃんねる）

基盤法の相対（貸借）が無くなる件について

地域の話題 本荘
Honjo Area Topics

このコーナーでは、由利本荘市内各エリアから注目の話題をお届けします。

今回は本荘地域から「石沢学校食堂」をご紹介します。

石沢地区は耕作放棄された農業用地の再活用を促進するため、「石沢そば郷里の会」を中心にソバの栽培が盛んな地区である。企業の代表取締役でもあり、板前の経験がある尾身一人さんはそのそばを広く知ってもらうためと、地域のコミュニティの場を守っていきたいとの思いから、2年前有志の方々と共に廃校になった石沢小学校を利活用し、「石沢学校食堂」をオープンした。

石沢で生産されたそば粉を100％使用した二八蕎麦、こだわりの出汁はカツオ、昆布、飛魚などを贅沢に使い提供している。その他に天然酵母を使った焼きたてのパンや、季節の地元産を使用したお惣菜の販売などが好評を得ている。

遠方からのお客さんも多く、この日も秋田市や横手市から来客が訪れていた。毎週来店するという地区内の方はそばも美味しいし、ここに来れば知り合いに会える楽しみがあると話してくれた。

校庭や花壇もきれいに整備されており、この地域の方々が学校を大切にしている思いが伝わってくる。秋の日差しの中、のんびりブランコをこぐ親子の姿が印象的だった。

（担当委員　伊藤直子）

編集後記

昨年は、暖冬による雪不足の年に始まり、春には急な気温上昇、豪雨被害、高温障害、そして米不足など自然との戦いの一年だったように思います。その中でも特に豪雨で被害を受けた現場を直接見て、農家の方々の意見をお聞きし、早急な対策と支援が必要だと痛感しました。農業委員として、今年も自然災害への対策を課題として自分たちのできることに取り組んで参りたいと思います。

秋には米の値段が高騰したことは、米農家にとっては朗報となり、より良い物を消費者に提供したいと思う励みになったのではないかと思います。農作物の良さを生産者と消費者で分かち合える農業を目指していきたいと思います。

最後に発行にあたり、お忙しい中、寄稿くださいました皆さまに衷心より御礼申し上げます。

（委員　佐藤　源樹）

農業委員会事務局

市外局番（0184）

◆本　庁	TEL24-6258
農政班	TEL24-6259
農地班	TEL24-6260
	FAX24-6396
◆総合支所（産業建設課内　庶務班）	
矢　島	TEL55-4957
岩　城	TEL73-2014
由　利	TEL53-2114
大　内	TEL65-2804
東由利	TEL69-2116
西　目	TEL33-4614
鳥　海	TEL57-2205

◆広報委員

大瀧　浪雄・吉尾　麻美
小松　　健・伊藤　直子
佐藤　源樹・伊藤　剛
豊島　靖喜・齋藤　衛

由利本荘市　農業委員会だより
第37号／2025（令和7）年1月発行

●編集・発行／由利本荘市農業委員会　〒015-8501　秋田県由利本荘市尾崎17番地
TEL 0184-24-6258　FAX 0184-24-6396　E-mail noui@city.yurihonjo.lg.jp　印刷／（株）本間印刷所

©2025 由利本荘市農業委員会事務局　※転載・複写複製を禁じます。